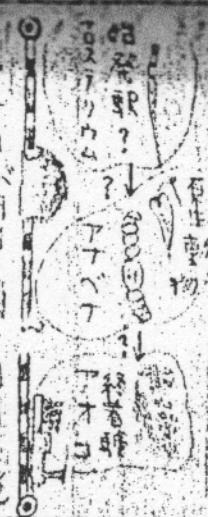


アオコと漁業 (3)

アオコの大発生のお知らせ

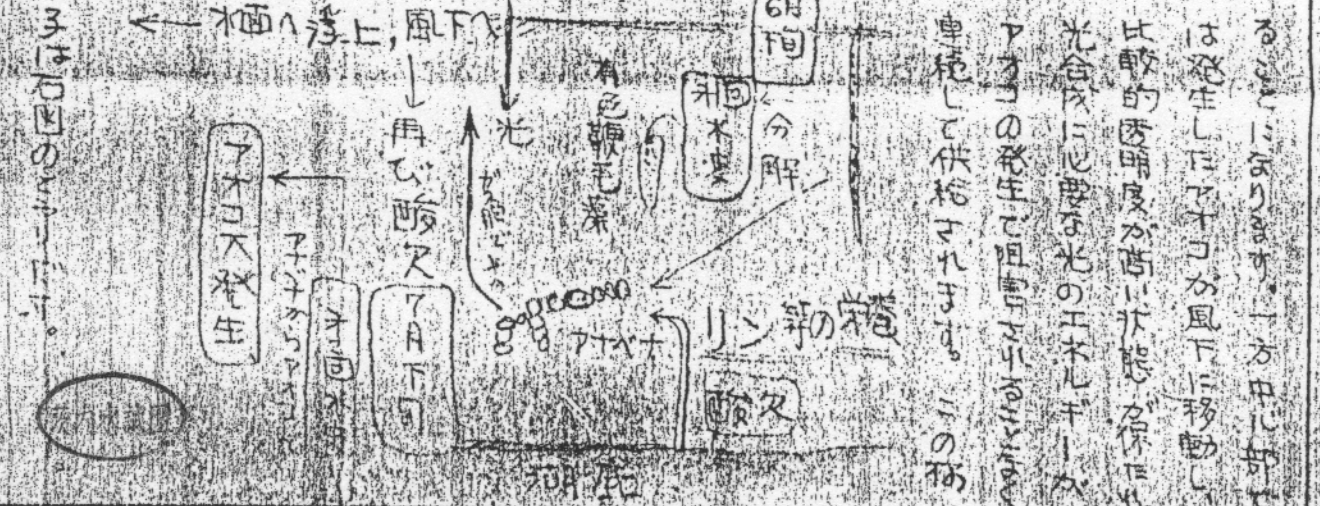


アオコは明治末期に相当に発生して、たとえ記録が当時の水産試験場報告にのこっています。戦後のように低地になって周囲の排水管が流入しやすいため湖ではアオコが発生することは、しごくあたりまえのことです。最近のように人間が周囲に集中するようになって、一尺顕著になってきました。アオコはアンモニアや炭酸ガスのような魚に有害な物質を吸収し水中から取り除いてくれると同時に、酸素を産出し供給

してくれます。もしアオコが異常発生という最も後路の一応の注意を怠り過ぎたならば、終結が困難な事態と考える必要があります。この発酵は、それでは、どこまでいっても、未だ、よくわかっていないことですが、その目的をまては、そのほろりともいえます。48年の場合には、冬場にクロステリウムが発生し、6月下旬に湖全体の酸欠になりました。このことは、湖からリンや窒素が引き出されてくることを意味します。又、クロステリウムの分解によって水中へ溶け出されたアンモニアの増殖の原動力となっていて、7月下旬からアノコが一時、爆発的に発生します。アノコは、細胞内にガス肥を形成し、風が適当であれば水面上を浮上し、この頃、吹き続く南よりの風によって高気圧が北上し、湖に集積し水

してくれます。もしアオコが異常発生という最も後路の一応の注意を怠り過ぎたならば、終結が困難な事態と考える必要があります。この発酵は、それでは、どこまでいっても、未だ、よくわかっていないことですが、その目的をまては、そのほろりともいえます。48年の場合には、冬場にクロステリウムが発生し、6月下旬に湖全体の酸欠になりました。このことは、湖からリンや窒素が引き出されてくることを意味します。又、クロステリウムの分解によって水中へ溶け出されたアンモニアの増殖の原動力となっていて、7月下旬からアノコが一時、爆発的に発生します。アノコは、細胞内にガス肥を形成し、風が適当であれば水面上を浮上し、この頃、吹き続く南よりの風によって高気圧が北上し、湖に集積し水

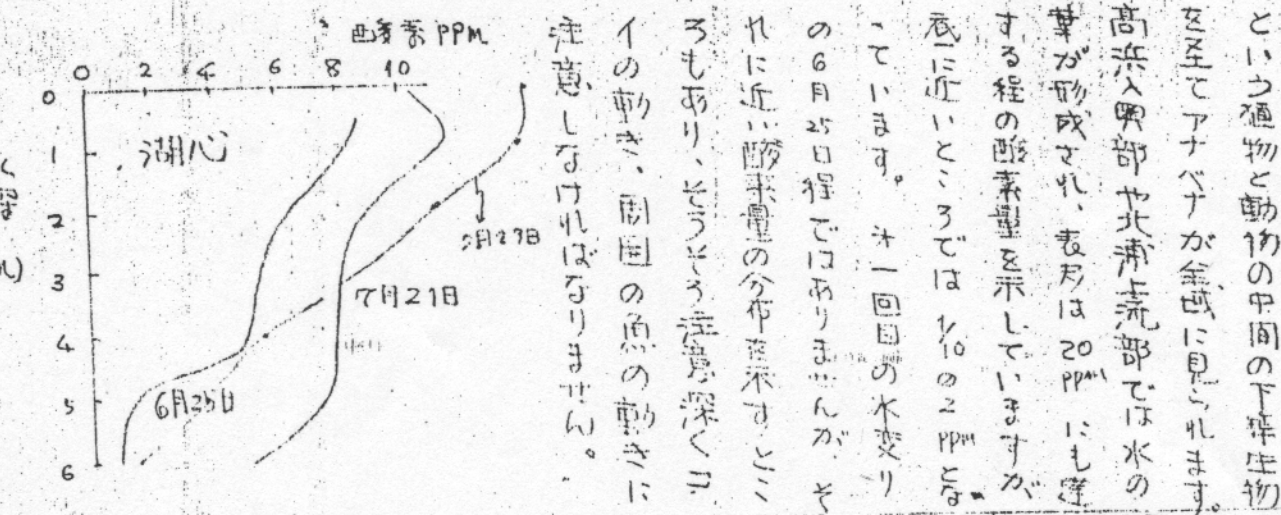
してくれます。もしアオコが異常発生という最も後路の一応の注意を怠り過ぎたならば、終結が困難な事態と考える必要があります。この発酵は、それでは、どこまでいっても、未だ、よくわかっていないことですが、その目的をまては、そのほろりともいえます。48年の場合には、冬場にクロステリウムが発生し、6月下旬に湖全体の酸欠になりました。このことは、湖からリンや窒素が引き出されてくることを意味します。又、クロステリウムの分解によって水中へ溶け出されたアンモニアの増殖の原動力となっていて、7月下旬からアノコが一時、爆発的に発生します。アノコは、細胞内にガス肥を形成し、風が適当であれば水面上を浮上し、この頃、吹き続く南よりの風によって高気圧が北上し、湖に集積し水



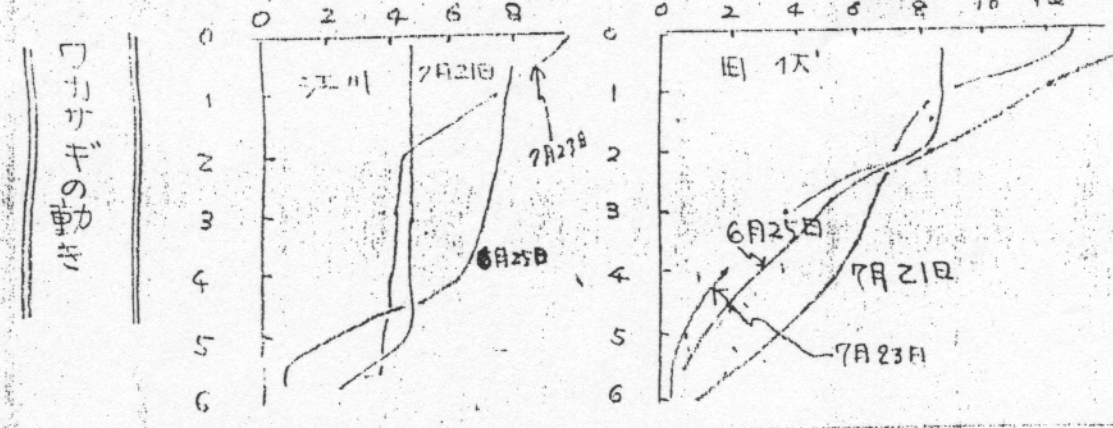
ワロステリウムの分解によって  
 酸素欠乏になる底から  
 栄養がゆきまわして来ます。窒  
 素の増加は勿論のことですが、  
 リンの溶出がさらに拍車をかけ  
 ます。水中の酸素が同じでも  
 酸欠によって溶出して来たリン  
 によりアオコの量が一倍も増  
 加します。こう考えて来ると  
 冬の間にどんなプランクトンが  
 どの程度でているか、そして  
 それをなぜか必要を問題とな  
 って来ます。

現在の水質

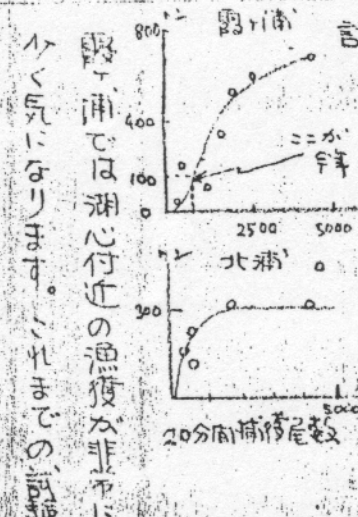
7月28日(水) 湖心  
 17時開始 観測  
 18時終了 観測  
 19時開始 観測  
 20時終了 観測  
 21時開始 観測  
 22時終了 観測  
 23時開始 観測  
 24時終了 観測



ワカサギの動き  
 7月21日の解禁日は、最近  
 では、めずらしくいくらの活  
 気があるように見えました。ある



少くはなりません。これまでの観測  
 の結果から推定すると霞ヶ浦、  
 100トン、北浦300トン合計400トン  
 と推定しますが、予想ははれると新刊



試馬曳の捕獲量(時間別)

| 地点  | 6月20-22 | 7月5-7日 |
|-----|---------|--------|
| 土浦入 | 1.5     | 0.75   |
| 不三  | 0.03    | 2.7    |
| 高水  | 0.6     | 0.1    |
| 大自  | 58      | 0.7    |
| 江川  | 132     | 81     |
|     | 168     | 93     |
|     | 144     | 56     |

試馬曳の捕獲量と年間の漁獲量

新聞も久しぶりに豊漁の手ごたえ  
 と報じています。当水試の調査では  
 5月下旬までは土浦入大岩田、北浦  
 高浜入に相当量見られたものの、7  
 月20日には、生息水域が狭まると  
 て沖宮付近に集中してまいりまし  
 試験操業の結果は次のとおりです。